

ミュージカルドラマ

ダビデ

2026

CFNJ聖書学院ドラマクラス

キャスト

- *ダビデ ----- 岩村 一義
- *サムエル ----- 伊藤 仁
- *サウル王 ----- 神田 満
- *ナタン・兄 ----- 木藤 穰
- *バテ・シェバ ----- 岡田 賛美
- *ミカル ----- 宮内 仰
- *エッサイ・長老 ----- 後藤 鉄成
- *将軍 ----- 磯谷 健太
- *家来 ----- 山 元気
- *母 ----- 鍛冶川 紀子
- *少年ダビデ ----- 杉浦 誉
- *兵士1 ----- オリバー ライトゲープ
- *兵士2 ----- 浜田 賢
- *息子（アブサロム） ----- 金澤 輝
- *ゴリヤテ ----- 岡田 雄基（声のみ）
- *少女1 -----
- *少女2 -----
- *ナレーター ----- 濱田 めぐみ（声のみ）
- *アンサンブル（男） ----- 鍛冶川 利文
- *アンサンブル（女） ----- きえ・ゆきな・エミリー・あき・ふゆ
- *アンサンブル（子供） ----- みか・こなつ

- *オリジナル ----- Sight & Sound Theatres「DAVID」
- *脚本・演出・音楽プロデュース・歌唱指導・録音 ----- 岡田 雄基
- *総監督・演技指導 ----- 鍛冶川 紀子
- *音響 ----- 堀井 聡一
- *撮影 ----- サムエル
- *照明 ----- 株式会社 ほりぞんとあーと

プロローグ

民：「**王が欲しい**」「**王が欲しい**」

サムエル：「あなたがたには王の王 全能の主がいるではないか」

民：「**他の国のような王が欲しい**」

長老：「神は天にいるが 我らは地上の王が欲しいのだ

敵の国には王がいるが 我らを守る人はいない」

サムエル：「主を呼び求めると答えてくれるではないか なぜ人により頼もうとする」

長老：「話を逸らすな！サムエル！神の守りは信頼できない

俺らは我々のために戦ってくれる王が必要なのだ」

民：「**王が欲しい**」

サムエル：「あなたが主を信頼しないのは彼を知らないからだ

しかし主は願いを聞き入れられた 見よ！あなたがたの王！サウルだ！

サウルよ主は悲しまれている しかし主はあなたと共におられる

彼に近づくなればあなたは栄える しかし背くなら裁きの手が下る

主はご自分の心にかなう人を求めておられる」

（「王が欲しい」より）

第一幕

母：「おはよう！ ダビデ あら とっても早起きなのね まあ その曲 すごくいいわ」

ダビデ：「ありがとう お母さん！今日は空がとっても綺麗だから

神さまを賛美したくなっちゃったんだ」

母：「私も参加していいかしら？」

「**あなたは麦で大地を満たし 広やかな平原を 穀物で覆い**

息子や娘を祝福し 雨を注ぎ 種を芽生えさせる」

民：「**収穫の主よ 賛美ささげます**

収穫の主よ あなたの御名をあげます」

「**耕して 種を蒔いて 主をたたえる**

働いて 汗を流して 主をたたえる

脱穀してもみ殻 飛ばして 主をたたえる

運んで 集めて 収穫」

「（ワイワイ）**ハイ！ ハイ！ ハイ！ハイ！ ハイ！ハイ！**」

（「収穫の主」より）

エッサイ：「やめろ！ 何してんだ！ 歌ってる暇があったらさっさと仕事に戻れ」

「ダビデ ここにいると仕事の邪魔だ 野原で羊の番でもしてろ」

少年ダビデ：「ねえ... 待ってよ！ もう疲れた... オオカミに食われちゃっても知らないからね！」

母：「ダビデ～ ここでなにしてるの？」

少年ダビデ：「羊の番をしているんだけど 言う事聞いてくれないし 一人ぼっちだし つまらない」

母：「あなたは一人じゃないわ 主があなたと共におられるから

それにあなたが退屈しないように ほら 豎琴も持って来てあげたわ」

少年ダビデ：「やらない！ だってお父さんが音楽好きじゃないんだもん」

母：「でもね 天のお父様はあなたの演奏を聴くのが大好きなのよ」

少年ダビデ：「本当？ どうしてわかるの？」

母：「それはね 天のお父様である主が音楽を作ったからなの

ほら 耳を澄ませればそれを聞くことができるわ」

「水の中」「風の中」「聞こえる？」

少年ダビデ：「わかんない」

母：「主はあなたにも音楽を与えたの

あなたがその音楽で主を賛美するとき 主は喜んでくださるわ」

母：「**今静まり御前に出なさい 聖なる主は共にいる**

主はあなたに歌を授けた 被造物と共に主をたたえよ

「ハレルヤ」

少年ダビデ：「ハレルヤ」

母：「ハレルヤ」

「**羊飼いを信頼し 耳を傾け 従いなさい**」

「**羊を緑の牧場に伏させ 水のほとりに 導きなさい**

ライオンのように戦いなさい 羊はあなたを頼ってるのよ」

「わが愛する子 ダビデ！ 良い羊飼いはね 自分の羊のために命を捨てるの

自分の羊を愛して 一人として滅びることを望まないから」

母：「**力は主からのもの 導くことは愛すること**

羊飼いを信頼し 耳を傾け 従いなさい 耳を傾け 従いなさい」

(「羊飼いの声」より)

第二幕

ダビデ：「主は羊飼ひ 私は乏しくない 恵みが私を追って来るでしょう 主の家に 住みたい」

「ココちゃん ナナちゃん タロウ 家に帰るよ！」

「牧場へ 主はわたしを伏させて いこいの水辺へと 導かれます

あなたの 杖は私の慰め 御名のゆえ義の道へ 導かれます

御心求めます 御心求めます ヘイ！」

「主よ助けてください！」

「死の谷間も恐れない あなたが共におられるから

死の谷間も恐れない あなたが共におられるから

おお 主は羊飼ひ 私は乏しくない 恵みが私を追って来るでしょう

主の家に 住みたい 永遠に 御心求めます 御心求めます」 （「詩篇23篇」より）

母：「ダビデ！ ここにいたのね 急いで戻って来て！」

ダビデ：「え？お母さん 何があったの？」

母：「預言者サムエルさんが来てるの」

ダビデ：「サムエルさんが？」

母：「そう！大切なご用があってね お兄ちゃんたち全員に会ったあと

他に息子はいないのか？ってお父さんに聞いたの

だからあなたを呼びに来たのよ さあ とにかく急いで！」

サムエル：「なぜ最初から末の息子も呼んでなかったのですか？」

エッセイ：「まあ 彼はほかの兄弟たちと比べて劣ってますから」

サムエル：「人はうわべを見るが 主は心を見る」「彼の名前は何だね？」

エッセイ：「ダビデです」

サムエル：「ダビデ こっちへおいで」「私の後について一緒に祈っておくれ」

「וְאֶתְּחַבֵּט אֶת יְהוָה (ウエアハフタ エトウ アドナイ)」

ダビデ：「主を愛します」

サムエル：「וְכָל־לִבְּךָ אֶל־יְהוָה (エロヘツカ ヴェコル ルヴァフカ)」

ダビデ：「心を尽くし」

サムエル：「וְכָל־נַפְשְׁךָ (ヴフコル ナクシャカ)」

ダビデ：「精神を尽くし」

サムエル：「וְכָל־מְאֹדְךָ (ヴフコル メルデツカ)」

ダビデ：「力を尽くし」

サムエル：「ダビデ 主はあなたを選ばれた」

ダビデ：「ありがとうございます」「主よ！ありがとうございます」

「私の羊飼いです！私の友！」

母：「主はいつもあなたと共におられるわ！」

サムエル：「このことは誰にも言わないように そうしないと死ぬ可能性がある」

エッサイ：「え？ちょっと待って！何だって？ サムエル！一体どういうことが教えてください」

サムエル：「このことは やがて明らかになる だが今は 特にサウル王には知られないように！」

第三幕

ゴリヤテ：「誰か 俺と戦うものはいるか？」「怖くて膝が震えているのか？」

「お前たちは俺たちに太刀打ちできないだろ！」

「一つ勝負をしてやろう 一人を選んで俺のところによこせ

おれと戦っておれを殺せるなら おれたちはおまえらの奴隷になる

だが おれが勝ってそいつを殺したら おまえらがおれたちの奴隷になって

おれたちに仕えるのだ」

サウル王：「誰かゴリヤテと戦う勇気のあるやつはいないか？ 税金をすべて免除してやろう」

兵士1：「俺らに戦わせるつもりか？ 俺らは戦ってもらうためにあんたを王を選んだんだぞ」

民：「そうだ！そうだ！」

サウル王：「ゴリヤテと戦えば 誰でも税金なしで暮らせて

しかも荷台一台分の金も手に入るんだぞ！」

兵士1：「俺は国中の金をもらっても 戦うつもりはないぞ！」

ゴリヤテ：「これが神に選ばれた民なのか？卑怯者！ お前たちも お前たちの神も馬鹿だ！」

ダビデ：「あいつは誰だ？生ける神の陣をそしるとは！」

兄：「ダビデ？ここで何をしてる？」

ダビデ：「お父さんに頼まれてきたんだ！神の民を馬鹿にしているあいつは誰？」

兄：「そいつはゴリヤテというペリシテ人だ

サウルは誰かを自分の代わりに戦わせようとしているんだ」

サウル王：「ゴリヤテと戦うものには 荷台一台分の金と俺の娘ミカルもやろう！」

ダビデ：「え？彼女と結婚できるの？なんで誰も彼と戦おうとしないの？」

兄：「お前は早く羊のもとに帰れ！」

サウル王：「誰も金持ちになりたくないのか？！」

兵士1：「死んだらいくら金があっても意味ないんだぞ！」

ゴリヤテ：「まだ誰も俺と戦うものはいないのか？」

お前ら農民には剣よりもシャベルの方が似合うぜ」

「また今夜会おう！イスラエル人達よ」

兵士1：「どうするんだ！サウル！あんたが早く行って戦え」

サウル王：「俺がもし負けたら国がなくなるだろ！それでもいいのか？！」

ダビデ：「エルシャダイ あなたは全能の神 いつも共におられる方

エホヴァ・シャローム 平和の神 エホヴァ・ロイ 主は私の羊飼い」

「僕やります！僕がゴリヤテと戦います！」

サウル王：「君が？（爆笑）坊や 君はまだ若いから無理だよ あっという間に殺されちゃうよ」

ダビデ：「いいえ！そうなるのはあいつの方です」

サウル王：「君は豎琴弾くだけの人だろ？歌って眠らせようともいうのか？」

ダビデ：「いいえ！わたしは羊飼いでもあります

獅子やクマが来たらそれを打ち殺し羊を救い出しました

獅子やクマの爪から僕を救い出してくださった主は

このペリシテ人からも僕を救い出してくださいます」

サウル王：「う、ん だったら 私の鎧を着ていきなさい」

ダビデ：「いいえ！いりません」

サウル王：「そうか... 主があなたと共におられるように」

ダビデ：「どこへ行けましょう あなたから離れて 御前を離れて どこにのがれよう

海の果てにも あなたの御手が 天に上っても あなたはおられる

主は剣や 槍はいらない すでに戦いに 勝利したから

戦いは 戦いは 戦いは 主のもの」

「たとえ 死の陰の谷を歩むとしても私はわざわざいを恐れません

あなたが共におられますから」

ゴリヤテ：「俺は犬か！杖を持って向かって来るとは！ワハハ！」

ダビデ：「おまえは剣と槍を持って私に向かって来るが

私は万軍の主の御名によっておまえに立ち向かう！今日主はお前を私の手に渡される！

すべての国は イスラエルに神がおられることを知るだろう！」

ゴリヤテ：「さあ来い！小僧！おまえの肉を空の鳥や野の獣にくれてやろう」

~~~~~石投げ器を使うダビデ~~~~~倒れるゴリヤテ~~~~~

将軍：「走れ！！」

ダビデ：「戦いは 戦いは 戦いは 主のもの」

（「戦いは主のもの」より）

## 第四幕

民：「ダビデが来るよ！ダビデが来るよ！戦いから帰ってきた！」

「サウルは千を打ち ダビデは万を打った

サウルは千を打ち ダビデは万を打った」

少女2：「希望に満ち溢れ 新しい歌を歌おう 王は頑張って 千を打った」

家来：「でもダビデは万を打った」

民：「サウルは千を打ち ダビデは万を打った」

少女1：「彼は巨人ゴリヤテを 石投げだけで倒した」

民：「王よりも多くのことをしてくれた」

家来：「ダビデのおなーり！」

民：「キャー！ダビデ！」

家来：「1年前 ダビデはゴリヤテを殺しました

そしてそれ以来 彼は戦ったすべての戦いに勝ち続けています」

少女2：「歌ってちょうだい！ダビデ！」

少女1：「わたしと結婚してほしいわ！」

ダビデ：「ありがとう でも僕はミカルと結婚したんだ 今とっても幸せだよ

主は私に最高の愛する妻とお父さんを与えてくれた

初めて自分が家族の一員になったような気がするよ」

民：「サウルは千を打ち ダビデは万を打った

サウルは千を打ち ダビデは万を打った」

（「万を打った」より）

サウル王：「『サウルは頑張って千を打った』でもダビデは ダビデは万を打ただと！？」

聞いたか？民は俺よりもダビデを愛してる！」

将軍：「別に今日叫んでたとしても 民はすぐ忘れますよ」

サウル王：「彼は絶対 俺の王冠を狙ってる」

将軍：「いや そんなことないと思いますよ」

サウル王：「お前はバカか！サムエルも言ってただろう！

『主はあなたの王国を引き裂き他の人に与える』って

しかも『ご自分の心にかなう人』になってな！」

将軍：「あなたがその御心にかなう人になればいいじゃないですか」

サウル王：「お前も私を裏切るのか？

ミカルや他のイスラエルの民みたいに？」

ダビデ：「サウル王 私たちはあなたの命令に従いペリシテ人を追い払って来ました」  
サウル王：「おい！黙れ！そんな報告は聞きたくない！」  
ダビデ：「神よ 王の命を永らえさせ その王国が何世代にもわたって続きますように  
彼があなたの臨在の中に居続けられますように  
変わらぬ愛で彼を見守ってください」  
サウル王：「君はいいやつだ ダビデ」  
ダビデ：「いいえ 主が良い方なのです」  
サウル王：「それはわかってるが 君の心はいつも正義を追い求めている」  
ダビデ：「はい 私はいつも主の御心になうように願っています」  
サウル王：「お前だ！やっぱりお前だ！お前しかいない！」  
ダビデ：「どうしたんですか？」  
サウル王：「『ご自分の心になう人』それはお前のことだろ！騙してたな！」  
ダビデ：「やめてください 冷静になってください」  
サウル王：「俺はいたって冷静だ！俺の民を盗むやつは殺す！」  
「おい！ダビデを捕まえろ！絶対逃がすな！」

## 第五幕

ダビデ：「サムエル！ サウルの兵士たちが追いかけて来る 僕を殺そうとしているんだ」  
「サムエル！ねえ聞いてます？ 僕を殺そうとしているんです」  
サムエル：「シー」  
ダビデ：「え！？何してるんですか！！？」  
「おお！主よどうすればいいんですか？どうすれば...？」  
サムエル：「豎琴を弾きなさい」  
ダビデ：「え！？」  
サムエル：「豎琴を弾きなさい」  
ダビデ：「今必要なのは逃げることですよ？」  
サムエル：「いいえ 今必要なのは豎琴を弾くことです」  
ダビデ：「でも見つかったら殺されちゃいます 逃げなくちゃ...」  
サムエル：「今逃げてもどうせすぐ捕まって殺されるぞ」  
ダビデ：「じゃ今すべきことは豎琴を弾くことだというんですか？」  
サムエル：「そうだよ」「主を礼拝しなさい ダビデ 主の臨在と救いを招き入れなさい」

ダビデ：「ハレルヤ」

将軍：「王の命令だ！ダビデ！逮捕する！」

ダビデ：「ハレルヤ」

将軍：「おお！アブラハム イサク ヤコブの神よ！」「主よあなたを賛美します！」

ダビデ：「ハレルヤ」

サウル王：「おい！ダビデ！やめろ！サムエル！ダビデは連れて行かなきゃいけない

ダビデもやめろ！歌っても意味ないぞ！」

ダビデ：「ハレルヤ」

サウル王：「サムエル...こんな臨在は初めてだ！ ハ！レ！ル！ヤ！」

民：「ハレルヤ」

ダビデ：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

民：「たたえよ！ハレルヤ」

ダビデ：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

民：「たたえよ！」

ダビデ：「角笛鳴らし 豎琴鳴らせ 主が勝利を取められたから」

サウル王：「ハ！レ！ル！ヤ！」

民：「ハレルヤ (ハレルヤ)」

サウル王：「ダビデ！ダビデ！こんな解放感は初めてだ！ありがとう！おお！ハレルヤ！」

サムエル：「天は栄光を語り告げる 太陽と月と空と星

稲妻 雷 雲と雪 地のすべての生き物よ (ハイ！)

山や丘 谷や川 (ハイ！) 荒れ狂う川や海さえも (ハイ！)

若い者 年老いた者 全ての国民よ 主をほめたたえよ」

民：「ハイ！ハイ！ハイ！ ハイ！ハイ！ハイ！」

ダビデ+サウル王：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

民：「たたえよ！ ハイ！ハイ！ハイ！ ハイ！ハイ！ハイ！」

ダビデ+サウル王：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

民：「たたえよ！ハレルヤ」

サムエル：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

民：「たたえよ！ハレルヤ」

サムエル：「息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ」

サウル王：「皆主をほめ」

民：「たたえよ！」

(「息あるもの皆」より)

ダビデ：「なんじゃこりゃ～www」

「サムエル... 理解できません

サウルは昨日は僕を殺そうとしていたのに 今日腕組んで一緒に踊ったんですよ」

サムエル：「これが神の臨在だよ

サウルはこの臨在を受け入れようとはしなかったけどね...

サウルに油を注いだ時わしは悲しかった

彼が神の臨在よりも人々の称賛を愛したからだ

だが君に油注いだ時は喜びで満たされた

君が御心にかなう人であり

神がご自分の民を導くために君を選んだのがわかったからだよ」

ダビデ：「僕はどうすればいいのでしょうか？」

サムエル：「君は王になるため油そそがれたのだよ」

ダビデ：「え？」

サムエル：「君こそがイスラエルの真の王だ」

ダビデ：「いやいや 王様はサウルですよ！」

「彼こそ偉大な王ですよ 12の部族をまとめペリシテ人 アマレク人を撃退して...」

サムエル：「君はうわべを見ているが 主は心を見る」「サウルは心の中で 主を拒絶した」

サウル王：「ハレルヤ～」

サムエル：「そろそろサウルが目覚ますから早く行こう... ダビデも早く行きなさい」

ダビデ：「でも...サウル王も改心したと思いますけど.....」

サムエル：「そう簡単にはいかないんだよ

本当に心を入れ替えるには神の御前に入る必要がある 神と親密になる必要が

でも彼はそれをしようとはしない」

「ダビデ 私たちももう会うのはやめよう

今日ここで起きたことを忘れるなよ

そしてダビデよ 礼拝の力を忘れるな

戦いは剣だけで勝てるわけではないという事を」

ダビデ：「ありがとうございます サムエル」

サウル王：「ここはどこだ？」

「ダビデ！どこだ？！ダビデ！逃げられないぞ！」

「もういない...」「サムエルももういない」「神はいない！」

「この王冠は誰にも渡さない」

「こんなことは望んでいない 前はもっと幸せだった  
逃げ隠れた でも神と人は私を王にした  
努力した 歌おうと でもメロディーが分からない  
多すぎる 負担や責任 俺が悪いのだろうか  
人を助け敵を愛した でも俺には容赦ない  
犠牲を払い 尽くしたさ でも俺から霊を奪った

ベツレヘムの羊飼いや 巨人殺しを助けた  
娘をあげ 土地をあげた でもすべてを奪おうとする  
いつも歌を歌ってくれた 裏切るなんて知らなかった  
息子だった 今は敵だ 愛したのは王になるためか？」

兵士1：「ダビデを見つけました！」

サウル王：「どこにいた？」

兵士1：「幕屋です 祭司は彼を祝福して食料を与え ゴリヤテの剣も与えました」

サウル王：「本当に見たのか？」

兵士1：「はい」

家来：「でもアヒメレクは正しい人です 彼はいつもあなたを尊敬していました」

サウル王：「あいつはダビデが逃げているのを知っていながら助けて逃がし

俺に知らせなかった これを裏切り以外になんだっていうんだ！？」

「奪うものは奪う 罪さえ犯すさ この王冠を守るためなら  
盗んでやるさ 人も殺すさ 敵は潰す 王冠を守るためなら」

サウル王：「アヒメレクを殺せ」

家来：「なんですって？」

サウル王：「あいつはダビデとグルになって俺を裏切ったのだ！」 「ダビデはどこだ？」

家来：「わかりません」

サウル王：「嘘つけ！彼らを殺せ！彼らの家族を殺し町全体を破壊しろ！

イスラエル全土に知らせろ！ダビデにパン一切れでも与えたやつは運命はこうだ！」

「奪うものは奪う 罪さえ犯すさ この王冠を守るためなら  
盗んでやるさ 人も殺すさ 敵は潰す 王冠を守るためなら」

(「王冠を守るためなら」より)

## 第六幕

ダビデ：「私の敵はあとをつけ待ち伏せ いのちを狙っている  
私の涙をたくわえ 御翼の下に隠れさせて  
わが神 どうして私を 見捨てたのですか」

母：「ダビデ 羊たちを冷たい川のところに連れていきなさい」

少年ダビデ：「でも道が危ないから羊がついてきてくれないかも...」

母：「そうね 道は険しいけど一緒に乗り越えるときに  
彼らはあなたを信頼することを学ぶのよ」

「ハレルヤ」

ダビデ：「ハレルヤ」

母：「ハレルヤ」

ダビデ：「この心張り裂けても 主よあなたを信頼します  
荒野でも 暗い場所も 主よあなたを信頼します  
もう恐れない 主は隠れ場 主よあなたを信頼します  
主よあなたを信頼します 信頼します」

(「詩篇56篇」より)

## 第七幕

ダビデ：「天は神の栄光を語り告げ 大空は御手のわざを告げ知らせる」

「なんと素晴らしい空の星達 創られたものはあなたを歌う 私と共にあなたを歌う

鹿が水を慕うように わがたましいはあなたを慕う  
被造物と共にあなたを歌う あなたを歌う

あなたは海を命で満たし 山を築き丘を彫られた だから私もあなたを歌う

世界は賛美し 歌う あなたを賛美し 称える

主の恵みは天にあり その真実が雲に及び すべては歌う あなたの偉大さ

風に乗られ 光を着 私を友と呼ばれた 始めから終わりまで 偉大なお方

なんと素晴らしい空の星達 私のことも 母の胎内で とても素晴らしく 創られた方  
だから私も あなたを歌う」

(「被造物の賛歌」より)

家来：「ダビデ様！ ダビデ様... ご覧ください  
サウルの王冠とヨナタンの盾です」

ダビデ：「何があったんだ？」

家来：「イスラエルの兵たちはペリシテ人との戦いに破れ  
サウルも その子ヨナタンも死にました」

ダビデ：「**ヨナタンとサウル ヨナタンとサウル**  
**勇士たちは 倒れた わが友よ**

**ああ 勇士は倒れ ヨナタンの盾は砕け**  
**高き所で殺された イスラエルよ 嘆き悲しめ**  
**勇士たちは 倒れた」**

## **第八幕**

ナタン：「イスラエルの民よ これがあなたの油そそがれた王 エッサイの子ダビデと王妃ミカル」

「私 預言者ナタンは主なる神に感謝し 今日この王冠をあなたに  
主のしもべダビデの頭に授けます  
主よあなたは彼を油そそがれた王として  
あなたの民を導くために羊の群れから選ばれました  
あなたはその御力で彼を栄えさせてくださいました  
なぜなら彼があなたを信頼しており  
あなたの愛によって揺るがされることがないからです ハレルヤ！」

民：「ハレルヤ！」

ダビデ：「主なる神よ 私は何者でしょうか？あなたがこれを心に留められるとは  
あなたのような方はいません そしてあなた以外に神はいません  
あなたは私の力 私の盾 身を避ける岩 私の神です  
私たちの勝利 歌 そして栄光はすべてあなたのものです  
あなたの約束はすべて真実です  
イスラエルの民よ！私たちの主以外に誰が神なのか？  
主以外に誰が王なのでしょう？  
今日主は私を王にしました しかし彼はすべての王の中の王です！  
イスラエルの真の王である主に賛美の叫び声を上げよ！」

民：「ハレルヤ！」

ダビデ：「王なる主！王なる主！王なる主！はい！ドラムも入って！」

民：「王なる主！」

ダビデ：「シンバルも叩いて賛美しよう」「手をたたいて主を賛美しよう！はい！」

「歌え！」「タンバリン！」「角笛を吹き鳴らせ！」「せーの！」

民：「ハレルヤ ハレルヤ」

「王なる主！」

少女1：「**戦いに力ある主 万軍の主 この方こそ栄光の王**」

民：「ハレルヤ ハレルヤ」

男子：「**主の山に登るのは 御顔を慕い求める人々**

**だから門よ 頭あげよ 栄光の王が入って来られる**」

民：「ハイ！ハイ！ ハイ！ハイ！」

ダビデ：「はい！みんなで！王なる主！」

民：「王なる主！」

兵士2：「**戦いに力ある主**」

少女1+2：「**万軍の主 この方こそ栄光の王 叫べ**」

民：「ハレルヤ」

「**王なる主 万軍の主 王なる主 救い主 王なる主 皆叫べ**」「**皆叫べ 万軍の主に**」

ダビデ：「ハレルヤ！アブラハム イサク ヤコブの神に栄光あれ！」

（「詩篇24篇」より）

ダビデ：「今日は主の前で共に祝おう！

イスラエルの民全員に パンとナツメヤシとレーズンお菓子を配ってくれ！」

民：「イエーイ！！」

「ミカル！ミカル！僕らもナタンに祝福してもらおう」

ミカル：「本当に今日 イスラエルの王様は 威厳がございましたわね

自分の家来や民の前で裸になって 恥ずかしくないのかしら」

ダビデ：「主は君のお父さんよりも その全家よりも むしろ私を選んで

主の民イスラエルの王に任命した だからその主の前で喜び踊るんだよ

恥ずかしくても構わないさ！」

「ミカル？ ミカル！」

ナタン：「いや...ダビデ 今日本当に素晴らしかった 父親も誇りに思っていると思うぞ」

ダビデ：「いや... それはどうかな（笑）『いいからさっさと仕事に戻れ』って言うんじゃないかな

まあ実際 やるべきことがたくさん残ってるしね

みんな！集まれ！主の王国を築く時がやってきた」

ダビデ：「さあ アブラハムに約束された すべての地を取り戻そう  
エルサレムを輝く都としよう 神殿の宝物蔵を 金で溢れさせよう  
さあ 始めよう イスラエルの神の栄光のために」

民：「**王は何でもできる 神によってえられた王 ゴリヤテを倒した 王は何でもできる**  
**王は何でもできる 神によってえられた王 ゴリヤテを倒した 王は何でもできる**」

兵士1：「ダビデ王！ ペリシテ人が攻めてきました」

ダビデ：「**御心求めます 御心求めます**」

「主は我々に勝利を与えてくださった ヨアブ 兵士を集めろ 行くぞ」

「見る ペリシテ人に勝ったぞ！」

民：「**王は何でもできる 神によってえられた王 ペリシテ人を倒した 王は何でもできる**」

ミカル：「**見てきたの 王冠の力を あなたさえ 変えてしまう 私は一人で 残されるの**」

兵士1：「ダビデ王 アマレク人が攻めてきました」

ダビデ：「ごめん...」

ミカル：「ダビデ...」

ダビデ：「行くぞ！」

ダビデ：「見る アマレク人に勝ったぞ」

民：「**王は何でもできる 神によってえられた王 敵は逃げ去る 王は何でもできる**  
**王は何でもできる**」

ダビデ：「**御心求めます 御心求めます**」

民：「**王が欲しい**」

ダビデ：「この人たちはなぜここにいるのだ？」

家来：「あなたに争いを裁いてほしいからです」

ダビデ：「なぜ俺に？」

民：「**王が欲しい**」

家来：「あなたが王だからです 最終決定権はあなたにあります」

ダビデ：「俺は疲れている 何から手を付ければいいのか...」

兵士1：「ダビデ王！ モアブ人が攻めてきました」

ダビデ：「行くぞ...」

家来：「王は戦場から戻って来てから 諸君の訴えを聞くだらう」

ダビデ：「見る えっと...」

兵士1：「モアブ人です」

ダビデ：「モアブ人に勝ったぞ...」

家来：「**ダビデよ 民があなたの裁きを 待ってます（待ってます）**  
**あなたが やるべき仕事がたくさん 山積みです（山積み）**  
**諸国の王たちが来てこう言っています あなたに（娘を嫁がせたい）」**

ナタン：「**羊飼いを 信頼し 従いなさい**」

家来：「**律法では同盟について禁じていません（大丈夫）**  
**結婚すれば戦いで命を落とさずに済む（いい考えだ）」**

ナタン：「**主の声 聞き従え さもなければ国は亡びる**」

ダビデ：「痛い！」

少女2：「大丈夫ですか？ 骨折れてますよ」

ナタン：「**気を付けろ（気を付けて）」**

ダビデ：「ワインを もっと持って来てくれ  
ナタン 彼らの言う通りだ 俺が結婚すれば 何百人もの兵士の命を救うことができる  
王に結婚して同盟を結ぶと伝えてくれ」

ミカル：「**忘れられ 子供も生まれぬ 寂しい ただ独り 道を見失う 闇の中で**」

兵士2：「**アンモン人に勝てば 約束の地はついに（我々のもの）**  
**我々は数で勝っているからすぐ済むはず（すぐ勝つ）**  
**門 破り 城 崩し 勇士たちを送り込め**」

ダビデ：「アブサロム やめろ」

兵士2：「**見逃すな 包囲して 制圧し 勝利する**」

ダビデ：「やめろって言っただろ」

家来：「ダビデ王 戦いの戦略は後にしてください 今日裁いてほしい事件があるんです」

息子：「父さん この曲聞いて」

ダビデ：「アブサロム！ 今すぐ豎琴引くのやめろ！ この部屋から出て行け！」

民：「**あなたの責任**」

ミカル：「**家族は無視**」

兵士1：「**さあ あともう少しなのだ**」

兵士2：「**さあ 神の計画を果たせ**」

民：「**王は何でもできる 神によってえられた王 ゴリヤテを倒した 王は何でもできる**」

「**王は何でもできる 神によってえられた王 敵は逃げ去る 王は何でもできる**」

「**王は何でもできる 王は何でもできる 王は何でもできる 王は何でもできる**」

ミカル：「**見たことあるの 見たことあるの 見たことあるの**」

ナタン：「**忘れるな 主の声 忘れるな 主の恵み**」

民：「**わが王よ**」

（「王は何でもできる」より）

## 第九幕

ナレーター：「サウル王が死んだあとダビデは 全イスラエルの王になりました  
主が彼を栄えさせてくださったので 彼は行く先々の戦いで勝利し  
イスラエルの領土はますます大きくなっていきました  
年が変わりダビデは自分の全軍を戦いに送りましたが  
自分が出陣せずに宮殿に残っていました」

将軍：「ダビデ王いますか？」

ダビデ：「びっくりさせるなよ！」

将軍：「すみません 寝室にいなかったもので... 大丈夫ですか？」

ダビデ：「眠れなくて...」

将軍：「またですか?... わあ...聞こえますか？」

ダビデ：「ああ とても美しい どこから聞こえてくるんだ？」

将軍：「えっと...この声は... おっと！」

ダビデ：「どうした？」

将軍：「彼女 明らかに私たちに気づいてないですね」

ダビデ：「なんでそう思う？」

将軍：「彼女風呂入ってますよ しかも屋上で」

ダビデ：「へえ... 彼女が誰かわかるか？」

将軍：「えっと... そこはウリヤの家ですから たぶん彼の妻バテ・シェバだと思います」

ダビデ：「歌えるなんて知らなかった... 彼女を連れてきなさい」

将軍：「え？今ですか？」

ダビデ：「眠れないから歌でも歌ってもらおう」

将軍：「はい わかりました」

ダビデ：「あとワインも もっと持って来てくれ」

将軍：「はい 閣下」

## 第十幕

ダビデ：「まさかそんな！嘘だ！ 今すぐウリヤを呼び戻せ」

ナレーター：「ダビデはウリヤを呼び戻し家に帰らせ 事を隠蔽しようとした  
しかしウリヤは何度説得しても

『他のものが戦場で野営しているのに私だけ家に帰り食べたり飲んだり  
妻と寝たりはできません』っという家に戻ろうとしませんでした」

バテ・シェバ：「私が悪いの 呼ばれただけ 過ちは犯さないと考えていたのに  
もう戻れない 元には 裏切ってしまった  
どうすればいいのだろう おお もうわからない」

ダビデ：「過ちは犯さないと 考えていたのに 責められるのは俺じゃない 元には戻れない」  
「どうすればいいんだ.... そうだ将軍ヨアブに使いを送れ」  
「『ウリヤを激戦の真っ正面に出し 彼を残してあなたがたは退き  
彼が討たれて死ぬようにせよ』」

将軍：「退散！」

バテ・シェバ：「戻れない やり直したい 教えて」

ダビデ：「嘘はつきたくなかった 死んでほしくもなかった この王冠を守るためさ  
嘘だっつつか隠し通すさ 葬り去る 王冠を守るため」

バテ・シェバ：「そんな... 嘘よ！」 「誠実で忠実な人だった」

(「王冠を守るため」より)

## 第十一幕

ダビデ：「どうしたんだ？こんな時間に」

ナタン：「申し訳ありません 大変なことが起こったので それを話しに来ました」

ダビデ：「今じゃないとダメか？まあいいや...すわって どうした？」

ナタン：「ある町に小さな羊一匹しかいない貧しい羊飼いがいました

彼はそれを育て 食べ物を分け与え

自分のコップから水を飲ませたり 腕の中で眠らせたりしました

彼はこの子羊を自分の子供のように愛していました」

ダビデ：「僕も昔同じことをしてたな...子供の頃」

ナタン：「その隣の家に何百頭もの羊や牛を飼う非常に裕福な人がいました

彼はすべてを持っていました

あるとき一人の旅人がその人のところにやって来ました

しかし彼は自分のところに来た旅人のために

自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ

貧しい人の子羊を奪い取り 自分のところに来た人のために調理しました」

ダビデ：「主は生きておられる そんなことをした男は死に値する

その男はあわれみの心もなくそんなことをしたのだから」

ナタン：「ダビデ あなたがその男です」

ダビデ：「え？まさか... いや... 違う！」

ナタン：「イスラエルの神主はこう言われます

『わたしはあなたに油を注いで イスラエルの王とした  
またわたしはサウルの手からあなたを救い出した  
さらにイスラエルのすべてをあなたに与えた  
それでも少ないというのなら あなたにもっと多くのものを増し加えたであろう  
どうしてあなたは主のことばを蔑み わたしの目に悪であることを行ったのか  
あなたはアンモン人の剣でヒッタイト人ウリヤを殺し  
彼の妻を奪って自分の妻にした  
今や剣はどこしえまでもあなたの家から離れない  
あなたが隠れて行ったことは全イスラエルの前で明らかになる』

ダビデ：「わー！」「私は主に対して罪を犯しました！」「私は主を裏切ってしまった」

エッサイ：「お前はいつも末っ子のくせに出しゃばって よくもわしの顔に泥を塗ってくれたな」

サウル王：「ダビデ ほら言っただろう 過ちを犯すって 神にも見捨てられるぞ 俺みたいにな」

サムエル：「ダビデ 警告したではないか 戦いは剣だけで勝てるわけではないと

あなたは自分の心を治めるべきだった！」

息子：「父さんをマネして豎琴頑張って練習したけど もう父さんみたいにはなりたくない」

母：「ダビデ... おおダビデ... なぜこんなことをしてしまったの」

非難の声：「偽善者 嘘つき 不倫者 泥棒 殺人者！」

少年ダビデ：「おお主よ 私はずっとあなたと一緒にいたいです

私はあなたのみことばを心に蓄えます あなたの前に罪ある者とならないために」

ダビデ：「**私にきよい心を造り 御前から 投げ捨てず 聖霊を取り去らないで**

**救いの喜びを私に戻して 御前から 投げ捨てず 聖霊を取り去らないで**

**あなたに罪を犯し 悪を行いました**

**砕かれた骨を 喜ばせて きよめてください 雪よりも白く」**

(「詩篇51篇」より)

ダビデ：「私が差し出せるのは砕かれた心だけです 私を雪のように白く洗ってください」

ナタン：「そこで何をしているのかね？」

ダビデ：「もうそれはいらない 私にはふさわしくない それは私を墮落させた  
私が望むことはただ一つ 私が追い求めることはただ一つ  
いつまでも主の家に住むこと」

ナタン：「主もそれを望んでおられる あなたと共に住み あなたを親しく知ることを」

ダビデ：「僕はそのことを歌にもしたのに どうして道を踏み外してしまったのだろう？」

ナタン：「あなたは主と深く親密な交わりを持つ代わりに 王国を築くことを優先してしまった  
それは破滅へと続く道だ」

ダビデ：「僕はサウル王を父親のように愛していたけど 彼よりも優れていると思ってた  
でも今は彼と同じだ いや もっと悪い...」

ナタン：「いや ダビデ サウルは間違いを犯したとき 王冠を握り締め 心を固くした  
しかしあなたは悔い改め 主はあなたを雪のように白く洗ってくれた」

ダビデ：「でも私の家族には何て言えばいいのだろう  
妻や子供たちにどう向き合えばいいのだろう  
僕を見て 不倫して人を殺した僕をきっとさげすむに違いない」

ナタン：「人はうわべを見るが 主は心を見る  
神はあなたの砕かれた心をご覧になられた あなたは赦されたのだ  
しかし これからの道は簡単ではない  
それは苦痛と喪失をもたらす あなたは罪の結果を刈り取る  
しかし 主はいつもあなたと共におられる  
あなたの召命を果たしなさい 神の民に謙虚に神と共に歩むように教えなさい」

ダビデ：「ナタン どうして神はこんなに良い方なの？  
どうしてこれほど大きな罪をも許せるの？」

ナタン：「彼は良い羊飼いであり 自分の羊を愛してる 一人として滅びることを望まない」

ダビデ：「良い羊飼いは自分の羊のために命を捨てる...  
小さい時にお母さんが教えてくれた言葉だ」

ダビデ：「**あなたを取り囲み 服をくじ引きし  
骨をみな外し 釘打たれた  
あなたは歌う  
『わが神 どうして私を見捨てたのですか』**  
  
**力が尽きても あなたは辱めを受け  
命を懸けわたしを 選んでくれた」**

(「詩篇22篇」より)

## フィナーレ

ダビデ：「主は あわれみ深く 情け深い 怒るのに遅く 恵み豊かである

主は いつまでも争ってはおられない とこしえに 怒ってはおられない

天が地上はるかに高いように 御恵みは 主を恐れる者の上に大きい

東が西から遠く離れているように 主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される

父がその子をあわれむように 主は ご自分を恐れる者をあわれまれる」

みんな：「ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ

偉大な ハレルヤ 御心求めます

息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ

偉大な ハレルヤ 御心求めます

息あるものたたえよ 皆主をほめたたえよ

偉大な ハレルヤ 息あるものたたえよ

主は羊飼いです 私は乏しくない

恵みが私を追って来るでしょう

主の家に住みたい

おお 主は羊飼いです 私は乏しくない

恵みが私を追って来るでしょう

主の家に住みたい

永遠に永遠に」